



利根中央病院だより

第41号  
2016年 春号

# きらめき



発行責任者 利根中央病院 院長  
編集責任者 利根中央病院 事務長  
〒378-0012 群馬県沼田市沼須町910-1  
TEL：0278-22-4325（直通）  
FAX：0278-22-4393  
URL：<http://www.tonehoken.or.jp/>



院長就任のごあいさつ

スローガン

かかりやすい外来  
断らない入院 選ばれる病院

院長 大塚 隆幸

皆さま、こんにちは。前任の糸賀院長が定年を迎え名誉院長に就任されたため、今年の4月から利根中央病院の院長に就任した大塚です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年9月に皆様のご協力のお陰をもちまして、沼須の地に新病院を建てて無事に移転することができました。改めてお礼申し上げます。

頭書のスローガンは当院の役割や今後進んでいく方向を職員一同で決めたものです。「かかりやすい外来」は外来の質の向上を図ります。例えば、どの科でも生活習慣病や認知症の診察ができたり、利用できる制度や施設の情報などをお知らせできるようにします。また夜間や休日の救急外来を一層充実し、24時間良質な医療を提供できるようにします。「断らない入院」では院内の入院環境を整えて最大限受け入れることは勿論ですが、地域の病院や開業医、施設等との連携を密にして、希望すれば入院できるようなシステムを目指します。

「選ばれる病院」になるためには医療の質を高めることも重要ですが、職員自身が成長することが

もっと大切だと考えています。すなわち医療者としても社会人としても高い見識を持ち、職種を超えてコミュニケーションを密にします。そして相手を敬う心、謙虚な気持ち、自然な佇（たたず）まい、を育てて皆さまのニーズに応えたいと思います。

当院は群馬大学医学部の関連病院として多くの科が教育病院や教育関連病院に指定されています。また、一昨年開設した総合診療科を含めて基幹型臨床研修病院、災害拠点病院、小児救急輪番病院の責務を果たしています。スローガンと共に学術・学問の分野でも向上心を忘れずに取り組んでいきます。

最後になりますが、皆様のご意見やご感想が病院や職員を成長させる糧となります。どうぞ、お気軽にお話しくださるようお願いいたします。

今後ともよろしくお願いいたします。





## 利根中央病院と歩んだ35年

名誉院長 糸賀 俊一

私は茨城県出身で昭和25年（1950年）11月生まれです。現在65歳、他人事のように思っていた還暦もあつという間に過ぎてしまいました。所謂団塊の世代（1947-1949年生まれ）の次の世代になります。我々の年代は良きにつけ悪きにつけ団塊の世代による大きな社会変化の影響を受けながら、その変化に対応しなければならなかった世代のようです。昭和44年（1969年）群馬大学医学部入学、この年は、東大安田講堂攻防戦の影響で東京大学の入学試験が中止され、長い東京大学の歴史上入学者のいない唯一の年になりました。医学部卒業（昭和50年）後大学で研修、昭和56年利根中央病院に赴任し、以来35年間、茨城に帰ろうか、開業しようかと考えた時期もありました。利根中央病院でここまで勤務を続けてこられたのは、多くの皆さまと出

会い、新病院建設への思いに支えられ続けられたことであると感謝しています。

医師不足などの混乱の時期に院長に就任し、地域の皆さま、職員の協力のもと、「夢をかたち」をスローガンに、新病院を完成することができました。新病院で仕事をすることが私の長い間の夢であり、夢をかなえることができました。利根中央病院が目指している地域医療に対する取り組みは、利根保健生活協同組合の組合員だけでなく、地域の多くの人々が望んでいることであったと思います。

最後に大きな仕事をやりとげられましたことは私にとって感慨深いところです。

これからも新病院長を支えながら、ひとりの産婦人科医として診療を続けていきます。関係者の皆さまには大変お世話になり深く感謝いたします。



## みんなで創り上げる医療

副院長 安藤 哲

平成27年9月より、新しい利根中央病院が動き始めました。職員は生き生きと活動しており、これからも医療の質を向上させ「誰でもかかりやすい病院」を目指しています。

さて、平成28年度は新しい地域医療計画のもと、地域包括ケアをにらんだ医療展開が必要となってきます。医師会を始めとして地域の医療機関、福祉・介護関係機関のみならず、行政、患者・家族、そして地域住民との連携によりみんなで創り上げる

医療が必要ではないでしょうか。地域医療の担い手である医師の獲得・養成も重要です。臨床研修指定病院としての当院の役割も発揮していきたいと思えます。今後、急性期医療にはさらに力を注ぎ、慢性期医療・在宅医療にも目を配ることが大切ですが、予防医療にも力を入れ、利根沼田地域の健康づくりを種々の連携を活かして行い、大塚新院長を中心に地域医療に貢献してまいりたいと思えます。



### 理念と方針

【理念】 安心と安全 参加と協同 患者中心のチーム医療

【方針】 ☆救急体制の充実 いつも安全確認 絶やさぬ笑顔

☆診療情報提供と共に作る診療計画

☆広げよう人と人との結びつき すすめよう健康づくりまちづくり



### 副院長就任のごあいさつ

## 地域唯一の総合病院として

副院長 関原 正夫

平成28年4月1日付けで、副院長を拝命致しました関原正夫と申します。今までは部長として、外科に加えて救急や災害対応を中心とした仕事をまいりましたが、副院長として重責を担うことになり、大変な緊張と責任の重さを感じています。

皆さまのご協力のもと、当院は平成27年9月に新病院に移転し、新しい1歩を踏み出すことができました。これは地域の皆さまが、利根沼田地域唯一の総合病院機能を有している当院に、新たな期待を

されていることに他なりません。その期待は、急性期医療から慢性期医療あるいは健診や予防活動まで多岐に渡っています。また、地域の医療機関や行政機関との連携も密にしていかなければなりません。

この地域の皆さまがより住みやすくなるように、皆さまのご協力をいただきながら、新病院長および私を含めて3名の副院長とともに病院全体・地域全体を視野にいたした業務に邁進していく所存です。どうぞ、よろしくお願いいたします。



### 副院長就任のごあいさつ

## 地域のために若い医師を育てる

副院長 吉見 誠至

この度、副院長を拝命致しました。長く勤務している病院でこのような職務につけることを光栄に存じます。私は、平成元年に群馬大学第一内科に入局し、専門領域として呼吸器を選択しました。2年目に当院で内科研修しております。5年目から9年目にかけて、そして12年目から現在までと医師となつてからの大半を当院で過ごしております。医師としての基礎は当院で培われたといつてよいと思います。数年前の内科医師減員に伴う危機的状況では辛い時期もありましたが、支援などを受けて、負の

連鎖は食い止められました。平成26年に総合診療科ができて、内科系に新しい人材が入るようになりました。当院は地域の中核病院であり、臨床研修病院でもあります。先の見えにくい時代ではありますが、若い医師が勉強したいと思って選んでもらえるような病院をめざしていくことが、この地域の医療にとつても将来的にも大事なことと考えます。私も微力ではありますが、頑張りたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

## 手指衛生キャンペーンに 多数のポスターがエントリー



手指衛生キャンペーンを開催し、職員からポスター17作品がエントリーされました。投票で選ばれた作品には表彰式で景品贈呈も。手作り感あふれるポスターで、手指衛生の重要性を再認識できた企画でした。

## 高校生看護体験に64名が参加



3月8日～9日の2日間で開催した「看護体験」に地元高校生64名が参加しました。

「患者さんに“頑張っ”と声をかけられ、とても嬉しかった」等の感想が寄せられました。

ぜひ素敵な看護師さんになって欲しいですね♪

## きらめき トピックス

### どんぐり保育園 開園



病院敷地内に設置した「どんぐり保育園」が開園しました。これでママさん、パパさんも張り切って仕事に集中できますね♪

病院からもキッズの可愛らしい笑顔やしぐさが見えるので心も“ほんわか”です。

### 新入職員オリエンテーション



医科研修医4名、歯科研修医3名を含む48名のフレッシュさんが当生協に入職しました。

2日間のオリエンテーションで、特徴点のレクチャーを受け、同期として顔の見える横のつながりも強化されました。

各現場に新しい風が入り、活気づきました！